



## 呂不韋の一字千金 (史記の中の千金①)

5月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2022年5月1日(日)

呂不韋は陽翟(江南省)の大商人である。

あちこち行き来して、安く買い取り、高く売りさばき、千金の富を蓄えた。商用で趙の都「邯鄲」に出かけ、秦からの人質「子楚」と出会い、彼に資金的な援助と秦の皇太子になる策を授け、実行した。「子楚」は「秦国の王」となり、その子の「政」は「秦の始皇帝」となって、中国を統一した。

功績により呂不韋自身も秦の宰相となった。

文信侯に封ぜられ、河南で十万所の所領を得て、「仲父」と号せられ、秦では並ぶ者のない権力者となった。

呂不韋の家の下僕は一万人もいた。

この当時、魏には信陵君、楚には春申君、趙には平原君、齊には孟嘗君がおり、いずれも士を尊重し、客を集めて競いあっていた。(各国の宰相クラス)

呂不韋も士を招き集め、食客は三千人に達した。

当時は、諸侯の下に身を寄せる論客が多く、荀子のごとく、著わした書が天下にあまねく広がる者もいた。

そこで、呂不韋は、自分のところの客人たちにそれぞれ学び伝えていることを記させ、八覽、六論、十二紀に分ち、「呂氏春秋」と名付けた。

完成した「呂氏春秋」を秦の都「咸陽」の市場の入口の並べ、その上に千金を吊り下げて、諸国の学者、論客たちを招き寄せ、「一字でも増やしたり、削ったりできる者には千金を与えよう」と触れを出した。

呂不韋が編纂したという「呂氏春秋」は全 26 巻は、二十余万語からなる。

「十二紀」の終りの「序意篇」によると、人々をして自然の大道を知って、人倫実践の規範を悟らしめようとしている。孔子が編纂したという「春秋」にならって呂不韋が当時の学者を集めて作成させたものである。そのため全体として統一されたものではなく、儒家、道家、法家、兵家、陰陽家等の諸説が混在しているが、古代史の研究上貴重な文献とされている。

呂不韋彼自身は道家や陰陽五行家に傾倒しており、秦の政治は、李斯が登場するまでは、法家的立場をとっていなかったと考えられる。

呂不韋は、趙の人質となっている秦の公子を「邯鄲」でたまたま目にして「これ奇貨なり、居くべし」とその将来に投資した。

商業、投機、政治、思想のトップレベルを経験し、諸国での名声も高かった。それだけに「一字千金」という後世の話題ともなる故事を残したのだ。

参照：史記(呂不韋列伝)、司馬遷史記(徳間書店)

一字千金

2022.5 ①

吕不韦是阳翟(河南省)的大商人。

往来全国各地,以低价买进,高价卖出,积累起千金家产。

他到赵都“邯郸”去做生意的时候,遇见从秦到赵做人质的

“秦公子的儿子子楚”,他教给子楚成为“皇太子的办法”

而且帮助他成功地成为了皇太子”。

“子楚”成了“秦国王”,他的儿子“政”,后来成了“秦始皇”。

吕不韦的功绩,使他成了“秦国宰相”。

他被封为“文信侯”,在河南领十万户封赏,

号称“仲父”,在秦国权力无与比肩者。

吕不韦家里有一万人的仆人。

○ 排比(句以上相似的句子)  
有气势

当时,在魏国有信陵君,在楚国有春申君,在赵国有平原君,

在齐国有孟尝君,他们都尊重士子,招揽门客互相竞争。

吕不韦也招集门下食客达到三千人。

当时,这样的“论客”在诸侯那边很炙,如荀子著书立说,  
流行天下。

吕不韦命了客将他们的所著记录下来,称为“八览”“六论”

“十二纪”,命为《吕氏春秋》。 ○《》书名号

完成的《吕氏春秋》,做罢秦的首都咸阳市场门口。

前面吊置千金,通知各国的学者、论客们。

告诉他们,谁能在《吕氏春秋》上增加一字,或者削减一字,  
都给千金。

吕不韦编辑的《吕氏春秋》全二十六卷，一共二十余万字。

“十二纪”终篇“序意篇”，是以让人民知道自然大道，领悟了解人伦实践的规范为目的而设置的。

《吕氏春秋》是仿效孔子编纂的《春秋》；

集合当时的学者们共同完成的著作。

所以这个系统不统一，混杂了儒家、道家、法家、兵家、

阴阳家等各种学说。

但它是研究古史的重要文献。

吕不韦在赵郡“邯郸”，遇见了在赵国做人质的

“秦公子子楚”，认为“奇货可居”，并投资子楚而成功。

吕不韦的经验在当时的商业、投机、政治、

思想上都可谓一流，而且在诸国也享有很高的声望。

所以，为后世留下了“一字千金”的故事。